

## 【日越大学メールマガジン Vol.14 2018 年 7 月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に1期生、2期生合わせて、約150名の学生が在籍し、共通科目の日本語と英語の習得に加え、地域研究(MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)の各専攻プログラムを勉強しています。また、2018年9月には、気候変動・開発(MCCD)が新たなプログラムとして開講予定です。

### 【今月のトピックス】

#### 1 日越大学ニュース

##### 第3回理事会の開催

7月20日(金)第3回日越大学理事会が19名(2名のテレビ会議出席を含む)の理事の出席を得て開催されました。

理事会では、①日越大学の2025年までの発展戦略、2035年の展望および2018年～2030年財務計画について、②2019年開講予定の日本学学部プログラムの構想に関して、③2018年サステナビリティ学研究院開設構想に関して、の3つの議題について真剣な議論が繰り広げられました。

各理事の方々から頂戴した貴重なご助言、ご提案は、今後の日越大学の運営の参考にさせて頂き、日本とベトナムの友好の象徴となる大学として、更に前進していく所存ですので、引き続きご支援の程宜しくお願いします。



##### 第1回卒業式の開催

日越大学の第1回目となる学位記授与式が、7月21日(土)開催されました。日越大学で2年間の修士課程を修了した56名の第1期生が、日越大学の古田元夫学長から学位記を授与されました。

当日は、来賓として、武部勤氏(日本ベトナム友好議員連盟特別顧問、日越大学理事)、梅田邦夫氏(在ベトナム日本国大使館特命全権大使、日越大学理事)、内田勝一氏(早稲田大学参与、日越大学副理事長)、To Huy Rua氏(ベトナム日本友好協会会長、日越大学名誉学長)、Nguyen Kim Son氏(ベトナム国家大学

ハノイ校総長、日越大学理事長）をはじめ、日本の大学関係者、ベトナムに拠点を有する日本企業など各界のリーダーが多く出席しました。

古田日越大学学長は祝辞にて、卒業生に対し、今後、持続可能な発展を推進する上では、人間と自然、短期的な目標と長期的な目標、過去と未来、個人の利益と社会の利益の均衡を求めることが重要であると言及しました。

また、日越大学は、日本とベトナム両国の友好関係のシンボルであり、卒業生はその象徴として、卒業後も、日本とベトナム双方の文化的価値と精神を体現する模範となるよう激励しました。第1期生として卒業する学生の中には、日本企業の本社に採用が内定している学生や、日本の大学に博士課程への留学が決定している学生が多くおり、今年の9月頃から日本に渡りそれぞれの道を進み始めます。また、ベトナム国内の日系企業に就職した学生も多く、今後の日越関係の架け橋として、産業界・学術界で活躍することがおおいに期待されています。

[https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180723-00000007-nna\\_kyodo-asia](https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180723-00000007-nna_kyodo-asia)



## リベラルアーツセミナーの開催

7月21日、日越大学が教育理念の一つに掲げるリベラルアーツを主題にしたアカデミックセミナーを開催いたしました。

日本からは、プレゼンターとして早稲田大学名誉教授の内田勝一氏、総評として相澤益男氏（国立研究開発法人科学技術振興機構顧問）、モンテ・カセム氏（学校法人至善館学長）、武内和彦氏（日本学術会議副会長）が参加しました。日本・ベトナム・ヨーロッパにおける、それぞれ地域のリベラルアーツ教育について意見交換をすることで、日越大学がベトナムでつくる新たな教養教育の方向性を展望することができたイベントとなりました。



## 2 第1期生を振り返って～

7月21日に日越大学大学院第1期生56名が卒業式を迎え、それぞれの卒業生が新たな道へと巣立っていきました。

思い起こせば、2年前の2016年9月9日、当地ベトナム・ハノイに日本とベトナム両政府の支援と大きな期待を受けて開学した日越大学大学院に、希望と不安を抱え、69名の第1期生が本学に入学しました。新設の大学院ということで、色々な面で未整備な状況の中、学生たちは、夜遅くまで自習室や図書室で勉強に打ち込んだり、日越双方の講師陣とお酒を飲みながら議論に明け暮れたり、学生なりに一生懸命頑張っていた姿が走馬灯のように駆け巡っています。また日越から多くの見学者、訪問者、スタディーツアーの学生等々が来訪して頂いた中で、来訪者の一部の方々に、特別講師として学生に有益なセミナーを講義した頂いたこともあり、1期生の学生にとっては貴重な時間を共有できたと思います。

そこで、第1期生に寄り添い、この2年間を過ごしてきたJICA専門家の教員陣にこの2年間を振り返って頂きます。

#### **中島淳日越大学学長特別補佐**

共通科目のBasic Sustainability Scienceをはじめ、文系理系と一緒に学ぶ初めての体験に戸惑いもみられましたが、6プログラムの学生が同じテーブルで違った立場からディベートを深めたり、その結果を役割分担してプレゼンしたり、VJUならではの成長の姿がみられました。日本語学習での発表やサマースクールなどのイベントへの協力でも、プログラムを超えた強いつながりがみられたと思います。彼ら彼女らが、ベトナムの未来を創り出してゆくことと期待します。

#### **地域研究プログラム**

##### **中臣専門家**

ベトナム研究1期生4人の名を漢字で書くと燕鳳装秋となります。私はこの四人組と一緒に『ベトナムの経営管理』について学びましたが、燕さんがフランチャイズ制のカフェ、鳳さんが航空会社、装さんが銀行、秋さんが食品会社を取り上げて書いたレポートはいずれも見事な出来栄で、私はそこから多くのことを学ぶことができました。それから1年後、燕さんはベトナムに進出した日本企業の文化的変質、鳳さんは村落の文化空間、装さんは日本に私費留学するベトナム人学生、秋さんはベトナムのフェイスブック文化をテーマに、それぞれが読み応えのある修士論文に仕上げてくれたが、これらの論文を読み返しながら、彼女たちの2年間を文字通り「持続的成長」の2年間だったことを改めて実感しています。

##### **伊藤専門家**

MAS日越研究第1期生8名が巣立っていきました。着任以後、学生等と共に泣き笑いの一年半でした。特に印象深いのは、修士論文提出間際にもかかわらず、何の音沙汰もない学生たちの態度に怒りの鉄槌を下したところ、翌日、反省文と蓮の花が届けられたことでしょうか。今となっては良い思い出です。今後は、彼ら自身がVJU育ちの「花」として、その個性を生かしながら、日越社会を飛び越えた国際社会に豊かな彩を添えていってほしいと思います。最後になりましたが、先生方、スタッフの皆さま、これまで見守って下さり、本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

#### **企業管理プログラム**

##### **日野専門家**

1期生ということもあり、MBAの学生は様々な企業を訪問する機会、著名な方とお会いする機会が数多くありました。どの場面においても、MBAの学生の学習意欲、積極性、団結力や社交性を高く評価して頂くことが多く、彼らがMBAの1期生であることを心より誇りに思っておりました。

最初の学年としての日越大学での勉強は非常に多くの困難もあったと思いますが、横浜国立大学をはじめとする多くの方の多大なご助力もあり、彼らは無事に日越大学を卒業することができました。今後はそれぞれの将来の夢に向かって歩み始めることとなります。この日越大学での2年間の経験を糧に、将来の夢に向かってMBAの卒業生が着実に進んでいけますことをご期待申し上げます。

#### 公共政策プログラム

##### 桂専門家

学生も教員スタッフも必死の2年間でしたが、1名以外、全員修士論文を執筆できたことはなりよりでした。また、1名を除くすべての学生がそれぞれ就職・進学先が決まったことも良かったと考えています。

本学での教育を通じて、振る舞い、姿勢において、大きな人間的な成長があったことが成果のひとつです。他方、色々と反省すべき点は多々ありますが、特に教員の益々の力量の充実が課題と考ます。最後に卒業生へ、大きな「ゆめ」「ゆとり」「ゆうき」を！！

#### 社会基盤プログラム

##### Phan Le Binh 専門家

入学した1期生の中には英語能力に不安がある学生もいましたが、2年間の猛勉強の結果、修論発表の際には、流暢な英語で説明し、質疑にきちんと応答した姿を見て、その成長ぶりに感激しました。

教員にとって最も報われたと思う瞬間でした。卒業前から、積極的に進学と就職の道を探したり、自力で奨学金を獲得したり、また日本企業での内定をもらったりと、明らかに優れた能力がこの2年間で醸成されました。今後、それぞれが自分の道で、日越大学の卒業生という誇りを持って、精一杯活躍していくことを、心から願っています。

#### ナノテクノロジープログラム

##### Dinh Van An 専門家

この2年間、皆さんは新設された日越大学で、新しい知識を修得し、探求してきました。学問の道は時には大きな壁にぶつかり、決して平坦な道ばかりではありません。しかしながら、この大学で学んだことは必ず、皆さんの将来を大きく切り開くことができる糧になると信じていますし、私は皆さんが将来、それぞれ進んだ分野の先駆者になることを期待しています。

皆さんの学び舎である日越大学の教員、職員は皆さんをいつも待っていますので、懐かしい気持ちになったらいつでもこの大学に笑顔で顔を出してください。人生は終わりのない長い旅の如くと言われていますが、皆さんが科学研究の分野において、いつも向上心、探求心をもって全身してくれることを期待しています。

#### 環境技術プログラム

##### 片山専門家

個性的な6名が巣立っていきました。英語のコミュニケーションに不安を抱えながらのスタートでしたが、テト明けに実施したホーチミンでのフィールド演習で東京大学の大学院生らと一緒に学び、ひと皮、むけたようでした。日本でのインターン、その後の修士の研究と、それぞれ努力して成果をあげ、無事に皆が修了できたことは喜ばしい限りです。今後の活躍を期待しています。

#### 日本語教育プログラム

##### 粟飯原専門家

第1期生への日本語教育は、1年目の夏学期までで、90時間でした。

何も覚えていてくれてないのではないかと思います。きっと「こんにちわ」の挨拶は、また会った時に、してくれそうですね。いつか「日本語は楽しかったな。」と思い出して、「また、日本語勉強しようかな」と思ってくれるとうれしいなあ。

### 松浪専門家

初めて彼らの授業を担当したのは、夏の集中講義でした。日本語学習を始めてから1年も経っていない学生がほとんどでしたが、日に日に日本語で話す量が増えていく姿を見て、非常にうれしく思ったのを覚えています。修了後引き続き日本語に触れる機会がある学生、ない学生もいるかと思いますが、日越大学で学んだことを活かしていけるよう、今後も応援していきたいと思っています。

## 3 今後の主な予定、行事

- ⊕ 8月11日～12日 日本学セミナー開催
- ⊕ 8月19日～29日 サマープログラム
- ⊕ 8月27日 45周年記念特別セミナー（場所：日越大学ミーディンキャンパス4階）
- ⊕ 8月27日～28日 法律に関する特別講義
- ⊕ 8月27日～29日 立命館大学スタディーツアー
- ⊕ 9月10日 第3回入学式



### 【お問合せ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 石田、浅田

Tel: +84 (0) 247-306-6001

E-mail: [mail.magazine@vju.ac.vn](mailto:mail.magazine@vju.ac.vn)

日越大学 HP <http://admission.vju.ac.vn/>

日越大学 Facebook（ベトナム語） <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook（日本語） <https://www.facebook.com/jicavju/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

### 【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 [mail.magazine@vju.ac.vn](mailto:mail.magazine@vju.ac.vn)（担当：石田、浅田）までご連絡頂ければ幸甚に存じます。